

1. 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究の概要

1. 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究の概要

1.1 共同研究の目的

本研究は、令和元年東日本台風をはじめ、これまで多くの洪水を経験している大崎市鹿島台地域において、流域特性に応じた長期的な視点から効果的な水害対策を検討し、国や県への提言に繋げることを目的とする。

本研究は、有識者から提言・意見をいただく専門家会議と、地域住民が自ら描く地域づくりビジョンを推進・共有するワークショップの2本の柱で進めていくものとした。

また、本研究成果は、水害常襲地帯の総合的な行政を担う市町村におけるこれからの水害対策のモデルケースとして、全国へ情報発信していくものである。

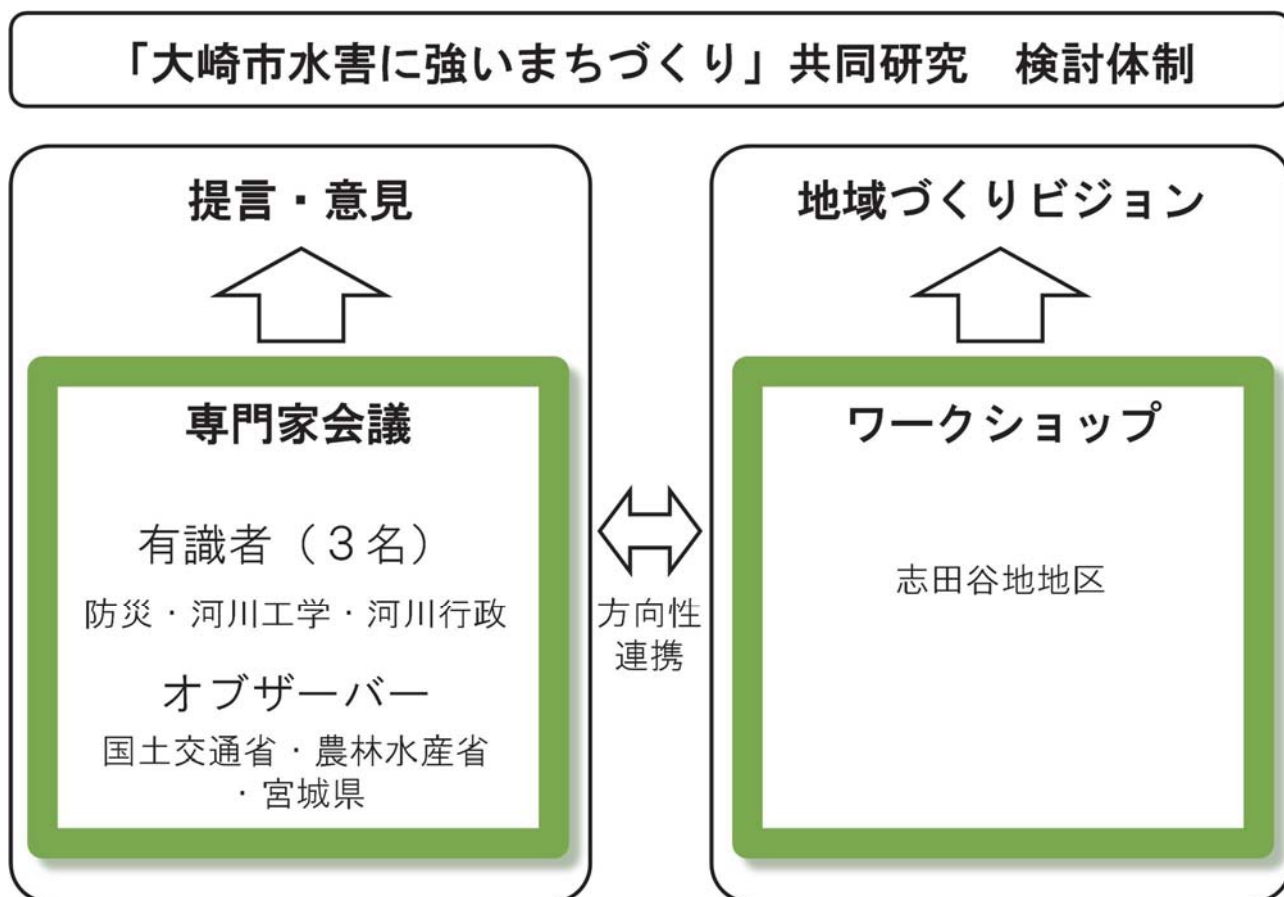


図 1-1 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 検討体制

1. 2 専門家会議の位置付け

(1) 専門家会議設立趣旨

「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議は、令和元年東日本台風により大崎市鹿島台地域が甚大な被害を受けたことから、治水及び防災について知見を有する有識者より、当該地域の流域特性に応じた長期的な視点から効果的な水害対策に対する提言や意見をいただき、「大崎市水害に強いまちづくり」に資することを目的として、令和2年9月4日に設立した。

「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 規 約

(名称)

第1条 本会議は、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（以下「専門家会議」という。）と称する。

(目的)

第2条 令和元年台風第19号により甚大な被害を受けたことから、治水及び防災について知見を有する有識者からの、大崎市の地域特性に応じた、長期的視点での抜本的水害対策に対する政策提言や意見をいただき、大崎市水害に強いまちづくりプロジェクトに資することを目的とする。

(委員)

第3条 委員は、有識者等から、宮城県大崎市長及び一般社団法人東北地域づくり協会理事長が任命する。

2 専門家会議は、別表1に掲げる有識者等で構成する。

(会議開催)

第4条 専門家会議は、宮城県大崎市長及び一般社団法人東北地域づくり協会理事長が招集する。

2 専門家会議は、原則として公開で開催する。ただし、議題に応じて専門家会議が必要と判断した場合は、会議の一部または全部を非公開とする。

(オブザーバー)

第5条 専門家会議には、オブザーバーを置き、宮城県大崎市長及び一般社団法人東北地域づくり協会理事長が任命する。

2 専門家会議では、必要に応じオブザーバーから意見を求めるものとする。

(事務局)

第6条 専門家会議の事務局は、宮城県大崎市建設部及び一般社団法人東北地域づくり協会河川技術部に置く。

2 事務局は、会議の運営に関する事務その他の事務を処理する。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、専門家会議の運営に関し必要な事項は、専門家会議において合議により定める。

(附則) この規約は、令和2年9月4日から施行する。

(2) 専門家会議構成員

専門家会議は、3名の有識者（防災・河川工学・河川行政）と主催者代表2名で構成し、国土交通省、農林水産省、宮城県農政部、宮城県土木部にオブザーバーとして参加していただいた。

表 1-1 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 名簿

種別	所属・役職	氏 名	備 考
有識者	国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	小池 俊雄	防 災
	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教養教育院 総長特命教授 (東北大学大学院 工学研究科 教授) ※ ¹	田中 仁	河川工学
	公益財団法人 リバーフロント研究所 代表理事	塚原 浩一	河川行政
主催者	大崎市長	伊藤 康志	
	一般社団法人 東北地域づくり協会 理事長	渥美 雅裕	
オブザーバー	国土交通省 東北地方整備局 河川部長	國友 優 板屋 英治	第1回 第2～3回
	国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所長	佐藤 伸吾 石田 和也	第1回 第2～3回
	農林水産省 東北農政局 地方参事官（特命・事業計画） 農村振興部事業計画課長	齋藤 伸 佐藤 昭彦	第1回 第2～3回
	宮城県 農政部 次長（技術担当） 副部長（技術担当）	千葉 伸裕 金須 豊洋	第1回 第2～3回
	宮城県 土木部 次長（技術担当） 副部長（技術担当）	菅野 洋一 大宮 敦	第1回 第2～3回

敬称略

※¹ () 書は、専門家会議設立当時の所属・役職

(3) 開催状況

「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究は、令和2年9月に開催した第1回専門家会議でキックオフし、その後令和2年度は専門家と事務局のワーキングWeb会議を2回行い、共同研究の全体像や地域特性について意見交換を行った。令和3年度は、ワーキング会議を2回行い、共同研究成果骨子や施策メニューのシミュレーション等の意見交換を行った。また、「流域治水」シンポジウムを開催した。令和4年度は、専門家会議を2回、ワーキングWeb会議を1回行い、共同研究の報告書を取りまとめた。

開催一覧、開催スケジュール、および開催概要を以降に示す。

表 1-2 開催一覧

会議名称	開催日	場所	出席者	議事	
				情報提供・報告	意見交換
専門家会議 (第1回)	R2. 9. 4	鎌田記念 ホール	有識者3名 主催者2名、 オブザーバー(国・県)	・専門家会議の進め方等	・大崎市鹿島台地域の特性 ・既往の洪水とこれまでの対応実績
ワーキング Web 会議 (第1回)	R2. 12. 11	Web 会議	有識者3名 オブザーバー(国) 事務局	・提言に向けて ・検討のための参考資料 ・「水害に強いまちづくりプロジェクト」	・提言をまとめるにあたっての 方向性等
ワーキング Web 会議 (第2回)	R3. 1. 29	Web 会議	有識者3名 オブザーバー(国) 事務局	・鹿島台地域の特性 ・水害に強いまちづくり全体 像(案)	・地域特性を踏まえた「まちづ くり・かわづくり」の意見 ・提言に向けての全体像の意見
ワーキング Web 会議 (第3回)	R3. 6. 18	Web 会議	有識者3名 オブザーバー(国) 事務局	・大崎市の魅力 ・水災害に対する防災・減災対 策 ・提言骨子まとめに向けて(イ メージ)	・大崎市の魅力とかかわづくり・ まちづくり ・吉田川で考えられる防災・減 災メニュー、留意点等
ワーキング Web 会議 (第4回)	R3. 11. 9	Web 会議	有識者3名 オブザーバー(国) 事務局	・水害に強いまちづくり施策 メニューの整理 ・主要施策の効果等 ・提言骨子(案)	・施策メニュー、シミュレーシ ョン等 ・提言骨子の構成、内容、留意 点等
吉田川 「流域治水」 シンポジウム	R3. 11. 28	鎌田記念 ホール	有識者3名 (基調講演 ・パネリスト)	・基調講演「変化を乗り越え、誇りある流域づくり」 ・パネルディスカッション 「流域治水で地域が発展していくために」	
専門家会議 (第2回)	R4. 7. 6	仙都会館	有識者3名 主催者2名、 オブザーバー(国・県)	・共同研究取りまとめ方針 ・ワークショップ開催状況 ・専門家会議報告書(事務局 案)	・専門家会議報告書(事務局案)
ワーキング Web 会議 (第5回)	R4. 9. 22	Web 会議	有識者3名 事務局	・R4. 7. 16 姥ヶ沢地区浸水要 因について ・専門家会議報告書(案)	・専門家会議報告書(案)
専門家会議 (第3回)	R4. 10. 27	鎌田記念 ホール	有識者3名 主催者2名、 オブザーバー(国・県)	・専門家会議報告書	・専門家会議報告書

大崎市水害に強いまちづくりロードマップ

2022/10/27 更新

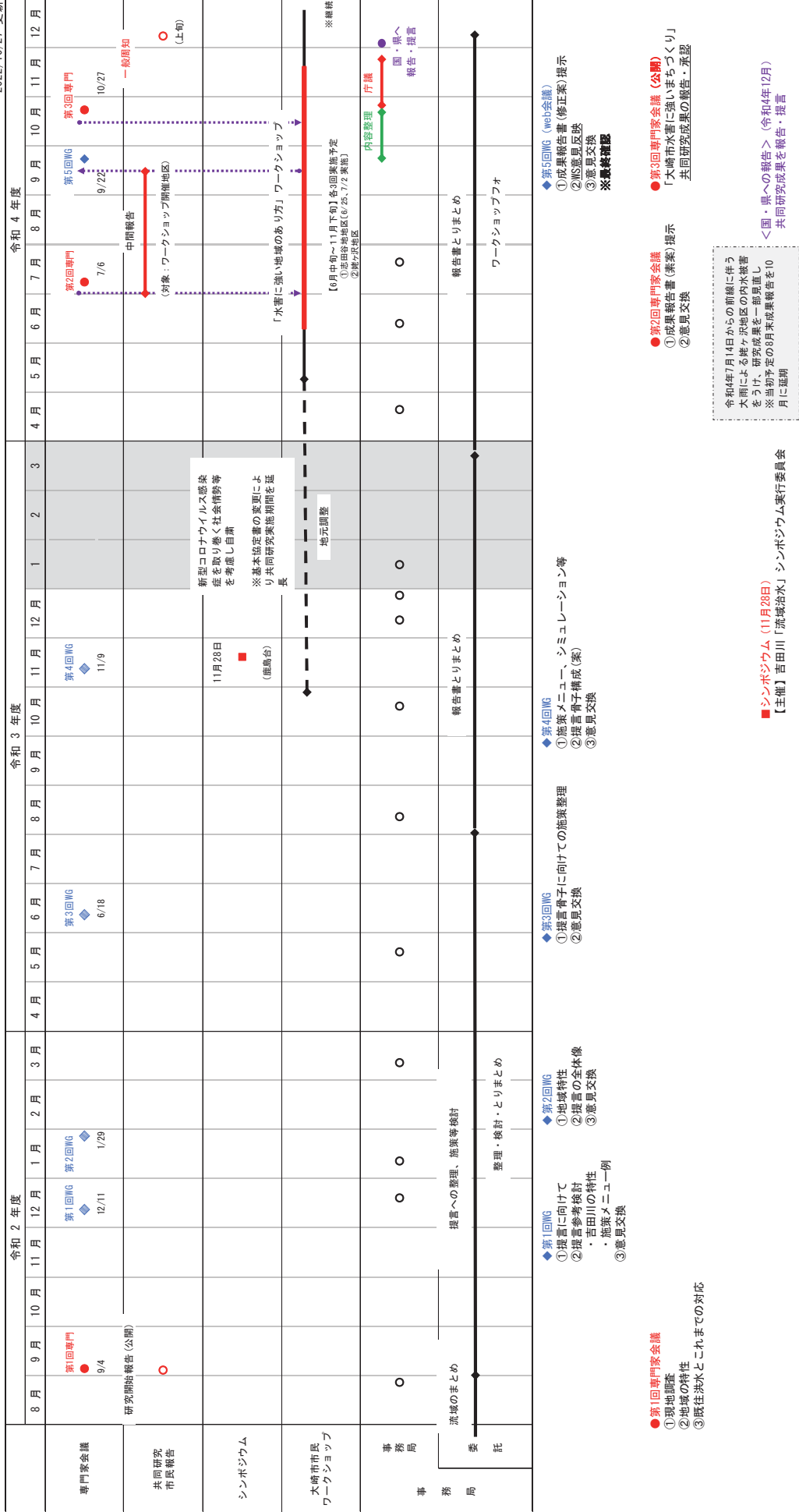


図 1-2 「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 ロードマップ

「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第1回）

- 令和2年9月4日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第1回）を開催した。
- 専門家会議の規約（案）・傍聴規程（案）について承認いただくとともに、会議の進め方について了解いただいた。
- 各委員から、地域の取り組み等について、質疑・意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。
- ・この地域における流域治水の考え方を、皆で作っていくことが重要。（小池）
 - ・農水側での水のコントロールや人家を守るための農地利用等、様々な工夫をこらし、災害ポテンシャルの高い地域に住む方法を考えて欲しい。また、水害のことだけでなく、この地域が発展していくために何が重要かを考えて行くことが重要。（小池）
 - ・避難行動に結びついたこの地域の災害伝承をきちんと評価し、継続していくことが重要。（田中）
 - ・海岸堤防の考え方を取り入れたり、歴史的遺構を現在の技術で評価する視点も必要ではないか。（田中）
 - ・今回の洪水で、どうして大きな被害になったのか、氾濫域で何が起きていたのか、被害発生メカニズムを細かく分析するプロセスが必要。（塚原）
 - ・治水は社会全体で取り組まなければならない、最後に決定し実践するのは地域の力である。全てが守れるわけではなく、しっかりと目標設定し、出来る対応を私事としてとらえ、取り組んで欲しい。（塚原）
 - ・これまでの経験を教訓に、大崎をフィールドに全国発信していきたい。（伊藤）
 - ・災害の経験値のある鹿島台だからこそ、全国にいろいろな提案できる。この地域は堤防が切れると長期間湛水するリスクがある。そういうリスクを背負った地域であることを踏まえた具体的な政策や提案を検討していかなければならない。（渥美）
- 以上（敬称略）

◇日時：令和2年9月4日（金）
10:00～12:00
現地視察
13:00～15:30
専門家会議（第1回）

◇場所：鎌田記念ホール 多目的ホール

◇出席者：専門家3名、主催者2名
オブザーバー5名
国（国土省・農林水産省）
宮城県（農政・土木）

【議事】

- ◆ 専門家会議の進め方等
- ◆ 意見交換
 - ・大崎市鹿島台地域の特性
 - ・既往の洪水とこれまでの対応実績



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第1回）

- 令和2年12月11日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第1回）を開催した。
- 提言をまとめるにあたっての方向性等について、意見交換を行った。各委員の主な意見は以下のとおりである。
- 小池委員
- ・大崎市の考えに勇気づけられた。先進的な考え方をしっかり持っていると感じた。
 - ・経済被害を減少、儲かる社会をつくるという視点が必要である。地域の発展（開発）と治水両方考えていかなければならない。
 - ・技術力を持ちアドバイス出来るファシリテーターは少ない。育てる環境を作り、将来をデザインすることで、地域の発展に繋がる。
 - ・令和元年東日本台風を受けても、移住しないといった人が9割いた。それだけ大崎には、たくさんの魅力があるということ。
- 田中委員
- ・ワンランクアップという表現は、ハード依存のイメージがあり、使い方が難しいと思う。
 - ・歴史的な構造物を今の技術で見直すことが重要。治水だけではなく、水質など広い方面で方面から検討を進めていく必要がある。
 - ・流域治水は、流域ごとの特徴を踏まえて考えていく必要がある。
- 塚原委員
- ・防災だけを求めても、地域はピンとこない。治水とあわせて、地域を良くするという方針が大事である。
 - ・住民には、危機感を伝えることが重要である。自助、共助の意識を育て、あわせて、地域の発展性についても訴えていく。
 - ・吉田川は難しい川である。浸水することを前提として、いかに被害を少なくするという観点も重要。
 - ・避難には地域のつながりが重要。隣近所が避難すれば、避難を始めるものである。心理学的なアプローチも必要となるのではないか。
 - ・鬼怒川では、堤防を整備するにあたり、堤防天端にサイクリングロードを設けてプラスワンとし、地域振興としていた。田んぼダムも単に作るだけではなく、農業生産性をよくするとか、発電をするなどのプラスワンの工夫が必要なのではないか。
- また、「土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター」板垣氏より、吉田川左岸氾濫対策検討に資する氾濫解析として、地域にとって相対的に危険となる氾濫シナリオの設定と対策検討について、事例紹介を受けた。
- 以上

◇日時：令和2年12月11日（金）
9:00～11:00

◇出席者：3名
オブザーバー（国土省）
事務局（大崎市・協会）

【議事進行】

- ◆ 事務局からの情報提供
 - ・提言に向けて
 - ・検討のための参考資料
 - ・「水害に強いまちづくりプロジェクト」
- ◆ 意見交換
 - ・提言をまとめるにあたっての方向性等



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第2回）

○令和3年1月29日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第2回）を開催した。
○地域の特性を踏まえた「まちづくり・かわづくり」の意見及び提言に向けての全体像についての意見交換を行った。
○各委員の主な意見は以下のとおりである。

小池委員

- ・世界遺産にもなる巧みな水管理は水害に弱い一面でもあるため、郷土と治水のどちらかを優先するのではなく、両立する必要がある。
- ・流域治水の「溜める」「暴露制御」「避難」の中で、「避難」は十分できているので、その他の2つについてメニューから有用なものを抽出してほしい。
- ・大崎市だけではなく、周りの地域も含めた圏域としての魅力を考えてほしい。
- ・流域治水は鹿島台だけの話に限定するのではなく、市全体で考えてくほうがいいのではないかと。

田中委員

- ・特に「新たな」にこだわる必要はなく、歴史的な施設が基本としてあるので、有用性を見ながら既存の施設の高機能化を考えてもいいのではないかと。
- ・地域住民が水害の経験を伝承し、資料館などのマテリアルもあるので、いかに活用していくか工夫としてある。
- ・松島町、大郷町等も関係しているので大崎市ひとくくりで考えていくのではなく、つながりがあることを意識していく必要がある。

塚原委員

- ・対策案の中の県道嵩上げでは上下流の合意形成が必要になる。リスクを分断ではなく、分担するように注意しなければならない。
- ・大郷町、松島町を含めて地域の特性・歴史を住民に周知させ、理解を得ることが重要で魅力、誇りに向き合っていく必要がある。
- ・溢れたときのリスクや資産を守る工夫が必要で事前に備えることが重要。
- ・高台移転することを検討する場合には、ただ移るのではなくそこで新たなまちづくりをすることを考えなくてはならない。

以上

◇日時：令和3年1月29日（金）
9:30～11:00

◇出席者：有識者 3名
オブザーバー（国交省）
事務局（大崎市・協会）

【議事】

- ◆事務局からの情報提供
 - ・鹿島台地域の特性
 - ・水害に強いまちづくり全体像（案）
- ◆意見交換
 - ・地域特性を踏まえた「まちづくり・かわづくり」の意見
 - ・提言に向けての全体像の意見

Web会議画面



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第3回）

○令和3年6月18日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第3回）を開催した。

◆大崎市の魅力とかわづくり・まちづくり

小池委員

- ・多様な方々が集まったコミュニティからは、色々なアイデアが出てきて、色々なことが生まれてくる。

田中委員

- ・治水の安全度が上がったことだけが理由ではないだろうが、人口増加現象が見られる地区というのは、地域の中でも特徴的だ。
- ・この場所も含めて平野部には、歴史的な土木施設が結構あるので、それらを防災教育等に活用することも大事なのではないかと。

塚原委員

- ・安全・安心に協力しろと言うだけでは、なかなか取り組みが広がらない。
- ・流域治水を行うことで、誇れる郷土（シビックプライド）の部分も増進するし、安全も向上するという仕掛けを作っていくことが大事。
- ・鹿島台を守ることの意義や、圏域全体に波及効果があることを、圏域全体の皆さんに共感してもらわなければならない。
- ◆吉田川で考えられる防災・減災メニュー、留意点等

小池委員

- ・考えられることは全部書いたという今回の資料は、流域治水の真骨頂の鳴瀬川（吉田川・大崎市周辺）版というものだ。
- ・対策のプラスとマイナス、実現までに要する時間、マイナス面に対する補填等を整理し、この資料を形にするプロセスを描いて欲しい。
- ・我が国の方向性や計画に関連付け、この計画は、どの筋の地域計画だという意味づけをすることも大事。

田中委員

- ・出来る出来ない・やるやらないによらずという姿勢は大事だが、一方で我々はいろいろなことを評価していかなければならない。

塚原委員

- ・高城川への排水対策も、松島湾への影響をしっかりと評価した方がよい。他の海域だと、下水道等の整備が進みすぎて栄養塩類が足りなくなり、むしろ栄養塩類を出せという議論をしているものもある。
- ・極論だが、迂回路が確保出来れば、洪水時には国道に水を流せばよい。流域治水と言うからには、そのくらいのことを考えてもよい。
- ・二線堤や氾濫区域のブロック化、非常用遊水地は、合意形成や補償・保険の仕組み、溢れた後の工夫などとセットで考える必要がある。

以上

◇日時：令和3年6月18日（金）
13:30～15:30

◇出席者：有識者 3名
オブザーバー（国交省）
事務局（大崎市・協会）

【議事】

- ◆報告
 - ・大崎市の魅力
 - ・水災害に対する防災・減災対策
 - ・提言骨子まとめに向けて（イメージ）
- ◆意見交換
 - ・大崎市の魅力とかわづくり・まちづくり
 - ・吉田川で考えられる防災・減災メニュー、留意点等
- ◆今後の予定



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第2回）

○令和4年7月6日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第2回）を開催した。
○各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・大崎市が中心でまとめた成果で、河川行政等に提言することは重要。しっかりやっていただきたい（塚原）。
- ・住民の皆さんに考え続けていただくことが大事。今回の成果が出て地域の問題はたくさんある。ワークショップは、ぜひ続けて欲しい（塚原）。
- ・最初は地域づくりで良い方向だけ見ているが、いずれ利益相反が起きる。その時、腹を割って話せる連携のあり方を常々考えて欲しい（小池）。
- ・大崎市だけで市を守ることは出来ない。流域に議論を広げていかなければならない。住民vs住民の利益相反もあるが、行政vs行政の利益相反もある。これまでの行政の枠組みを越えて、調整しなければならない（瀧美）。
- ・鹿島台の治水対策は、河川整備で出来るだけ氾濫を防ぐことを基本としつつ、それでも溢れたものをどうさばくのかというもの。その時、排水ポンプは100%の機能を発揮することが前提となる。氾濫域をブロック化することで排水効率上がり、お互いに良くなることを説明出来ればいける話（瀧美）。
- ・破堤口付近は水位を持って流れるので、床上浸水は完全解消出来るわけではない。浸水が落ち着いた時の床上浸水を解消するのが目標であることをしっかり書かないといけない（瀧美）。
- ・破堤口付近が床上浸水になる事態も、避けなければならない（小池）。
- ・降雨1.1倍の洪水が起こらないようにするのは物理的に無理。流域治水の考え方で、合わせ技で重層的に物事を考えていかないと、なかなか解は見つからない（小池）。
- ・科学的な面から、地域の皆さんに理解できる形で情報を提供（見える化）し、議論に乗せることが大事（小池）。
- ・氾濫域をブロック化すると上下流の対立がどうしても起こる。それをどう解消するかを盛り込まないといけない（小池）。
- ・氾濫域のブロック化は、説明・整理の仕方をよく考えた方がよい。代償措置等も含めて何らかの対処を考えることを整理した方がよい（塚原）。
- ・保険や災害支援制度などを地域としてしっかりと持つこと。救済措置があることが大事。（塚原）
- ・昭和61年8月洪水についての記述を増やし、氾濫特性に反映した方がよい（田中）。
- ・田んぼのダム推進にも上下流の利益相反がある。また、機器・機材、管理費等を助成する適した制度がなく、新しい制度が必要（伊藤）。
- ・農地の浸水被害低減目標3日以内の記載は画期的だが、世に出ると凄くインパクトがあるので、根拠をしっかりと書く必要がある。また、せめて3日という話で、3日でOKという話ではない。（塚原）
- ・破堤すると土砂が入り流れもあるので、その場合は3日ではない。越流の場合は、流れもないし浸水だけなので3日なら大丈夫というような丁寧な説明がないと誤解が生じる（小池）。
- ・「流域治水は地域ブランド」。安全で安心でレジリエントな社会を皆さんで取り組むことが、その地域の宝（小池）。

以上（敬称略）

- ◇日時：令和4年7月6日（水）
10:00～12:00
◇場所：仙都会館 4階会議室
◇出席者：有識者3名、主催者2名
オブザーバー5名
国（国交省・農林水産省）
宮城県（農政・土木）
- 【議事】
（1）共同研究とりまとめ方針
（2）市民ワークショップの取組み
（3）専門家会議報告書（案）について
（4）その他



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第5回）

○令和4年9月22日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議 ワーキングWeb会議（第5回）を開催した。

◆姥ヶ沢地区の内水対策について

小池委員

- ・二線堤区域内における内水被害は治水政策上難しい側面も引き起こす。内水はローカルな問題だが広く問題を捉えて、国とも相談しながら解決策を見定めてもらいたい。

塚原委員

- ・雨の降り方は大きく変わってきている。この先どう管理するのか考えないといけない。今回出来る対策はここまでだとしても、今回の現象だけで捉えないで、流域の地形や施設の状況等、よく検証した方がよい。
- ・流入区域も含めた全体を、地域の将来像も考慮した流域治水の考え方で、対策を考えた方がよいのではないかな。

田中委員

- ・大沢排水路の上流にも広い集水域があるが、平渡サントウの被害はなかったのか。地盤高が違うということなら、それをブロック化して考えるのは一つのやり方だと思う。

◆報告書（案）について

小池委員

- ・流域の雨を1.1倍した時は、流域の流出条件も変わってくる。昭和61年8月洪水では4ヶ所で破堤している。破堤点を20.9kと決め付けて、対策を考えるのは不十分。
- ・シミュレーションの条件が変われば、浸水深や浸水日数の数値は異なってくる。読む人が誤解しないように、どのように伝えるかが大事。
- ・地形を見ると、やはりこの地域は、吉田川が破堤しては駄目。破堤させない工夫が必要。

塚原委員

- ・（仮称）新・水害に強いまちづくりがどの部分のことなのか、よくわからない。書き方を検討し方がよい。
- ・全体のストーリーやコンセプトを4章に集約して、しっかり書き込んだ方がよい。最後が政策の観点ばかりになっている。これから先、流域の皆さんの共感を得て、いろいろな対策をさらに進めるといふまとめにするとよいのではないかな。

田中委員

- ・S61年洪水の記載を充実させる観点は、破堤条件が違えばこんなに浸水域の広がり等が違ってしまうバリエーションを示すということにある。
- ・頻繁に破堤している名蓋川のケースもある。堤防の不確実性も事実として、広域的な共通課題として、堤防強化の重要性を書く必要があるのではないかな。

以上

- ◇日時：令和4年9月22日（木） 14:00～16:00
◇出席者：有識者 3名
オブザーバー（国交省） ◆姥ヶ沢地区浸水要因について
事務局（大崎市・協会） ◆「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 報告書（案）



「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第3回）

○ 令和4年10月27日、「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究 専門家会議（第3回）を開催した。

○ 各委員、オブザーバーから総評いただき、共同研究成果としての報告書を取りまとめた。主な意見・総評は以下のとおり。

- ・ この共同研究は、「流域治水」政策の答申（令和2年7月）と同時期にスタートし、その趣旨は流域治水とよく合致していた。（小池）
- ・ この共同研究では、質の高い大崎市のまちづくりを実現していく、その材料を提供されたのだと思う。（小池）
- ・ 河川と農政の担当者がこれだけ一緒になって議論をする場はなかった。流域の協働という意味で、大変画期的な取り組みだったと思う。（塚原）
- ・ この取りまとめはゴールではなくて、スタートでしかない。（塚原）
- ・ 報告書「5.今後の取り組み」に書かれているコンセプトが大事。これをしっかりと浸透、徹底させること。特に、被災地以外の圏域全体の皆さんに「我がこと」として理解してもらうことが大事。（塚原）
- ・ サブタイトルのキャッチーなフレーズがあっても良いと思う。皆がこれでやるぞというようなパワーワードがあるとより良いと思う。（塚原）
- ・ 今後、他の地域も含めて議論を深めることが必要だと思う。（田中）
- ・ 堤防の耐力を向上させることでは、支川に対する視点も重要。令和元年東日本台風や今年7月の洪水を見て、特に支川の堤防整備が遅れていると感じた。（田中）
- ・ 万が一堤防が決壊して『も』、早く普段の生活に戻れるようにということろを2つ目のポイントとして重要視し検討してきた。（瀧美）
- ・ いよいよ実践へのスタート。地域の皆さんと一緒に、安全安心な、夢や希望を持って営み続けられるまちづくりをどう実現していくのか話し合い、行動を起こしていきたい。（伊藤）
- ・ 本共同研究は、同じような水害常襲地帯にとって、「流域治水」を検討していく上で大きな参考になる。（板屋）
- ・ 『水害に強いまちづくりモデル事業』は流域治水の原点であったと思う。（石田）
- ・ 本日まとめた報告書は、吉田川部会の中で具体化出来るものを進めていくという活用の仕方もあるのではないかと。（石田）
- ・ 今まさに吉田川流域の排水増強対策の整備構想を検討している。共同研究の報告書を参考にしながら、内水排除を検討していきたい。（佐藤）
- ・ 洪水時に吉田川から鳴瀬川に排水するというアイディアは、内水排除も効果があるのではないかと。ぜひ何か検討いただければと思う。（佐藤）
- ・ 排水機場等のハード整備は重要だが、財源や整備期間等の課題もある。住宅地や農地をどのように防御するかという視点が重要。（金須）
- ・ ハード整備にあわせて、災害に備える事前防災のソフト的な取り組みも重要。排水施設管理者の現場対応力の向上、農業関係者の防災意識の向上を進めていきたい。（金須）
- ・ 田んぼダムは、事前防災の推進にも繋がる重要なものと考えている。流域住民の理解を得ながら効果的な取り組みを進めていきたい。（金須）
- ・ 地域自らが豊かで住みよい地域、水害に強い地域を作っていくことにより、郷土と治水の双方が向上していくことを期待する。（大宮）
- ・ 流域治水協議会の場などを活用し、流域の皆様と一緒に流域治水の取り組みを推進していきたい。（大宮）

◇ 日 時： 令和4年10月27日（木）

14:30～16:30

◇ 場 所： 鎌田記念ホール

◇ 出席者：有識者3名、主催者2名
オブザーバー5名
国（国交省・農林水産省）
宮城県（農政・土木）

【議 事】

- （1）共同研究議報告書について
- （2）その他

